

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2013年10月）の予測

発表日：2013年11月29日（金）

～一致指数、先行指数とも2ヶ月連続の上昇を予想～

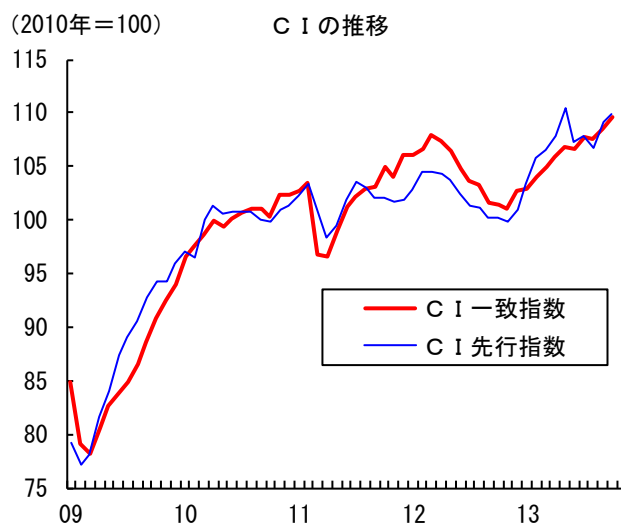
第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から12月6日に公表される2013年10月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差+1.3ポイントと、2ヶ月連続で上昇すると予想する。C I一致指数は6月～8月にかけて上昇ペースがやや鈍り、夏場に景気がいったん鈍化したことが示されていたが、9、10月は再び改善ペースが速まる形になる。景気が再び勢いを強めつつあることが示唆される結果になるだろう。なお、10月分の内訳では、大口電力使用量や投資財出荷指数、有効求人倍率などの押し上げ寄与が大きい。

先行きについても、①既往の円安による押し上げ効果や海外経済の緩やかな改善により輸出が増加する可能性が高いこと、②設備投資の伸びが高まる公算が大きいこと、③消費税率引き上げに絡んだ個人消費の駆け込み需要が顕在化することなどを背景に、C I一致指数は改善が続くと予想される。

C I先行指数は前月差+0.9ポイントが予想される。9月に前月差+2.4ポイントと大きく改善した後にもかかわらず、2ヶ月連続の上昇となるだろう。先行きの景気回復ペース加速を示唆する動きと言える。内訳では、消費増税決定やエネルギー価格上昇等の影響により家計のマインドが悪化したことで消費者態度指数のマイナス寄与が大きくなった一方、最終需要財在庫率指数や鉱工業生産財在庫率指数、中小企業売上げ見通しD.I.などが押し上げ要因になる見込み。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は「改善」で据え置かれるだろう（「改善」判断は4ヶ月連続）。なお、「改善」の定義は「景気拡張の可能性が高いことを示す」である。内閣府は「景気の山」を2012年4月だったと暫定的に判定しており、12年5月以降は後退局面だったことになる。ただし、その後退局面は極めて短期間で終了したとみられ、12年11月に景気は谷をつけた可能性が高い（12年12月以降は拡張局面である公算大）。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2013年10月は第一生命経済研究所による予測値